

## 男女共同参画の推進について

### 【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、男女がお互いを尊重し、あらゆる分野でそれぞれの個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「女性がいきいきと働き活躍できること」を重要な施策のひとつに掲げ、計画期間を平成28年度から令和2年度とする「第4次福岡県男女共同参画計画」を策定し、様々な施策・事業を推進しています。

また、DV（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある女性への支援も、男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

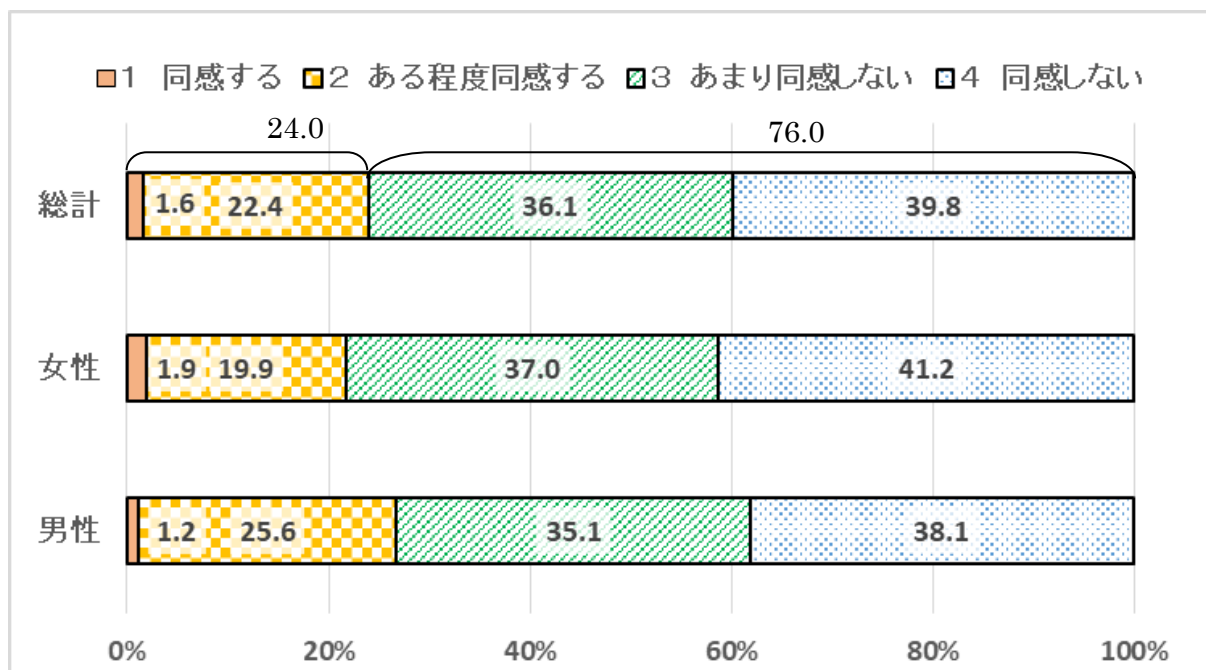
こうしたことから、今後の男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するとともに、DVについての認知度、相談窓口の周知度等を把握するため、調査を実施するものです。

(人づくり・県民生活部男女共同参画推進課)

問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が24.0%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が76.0%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。

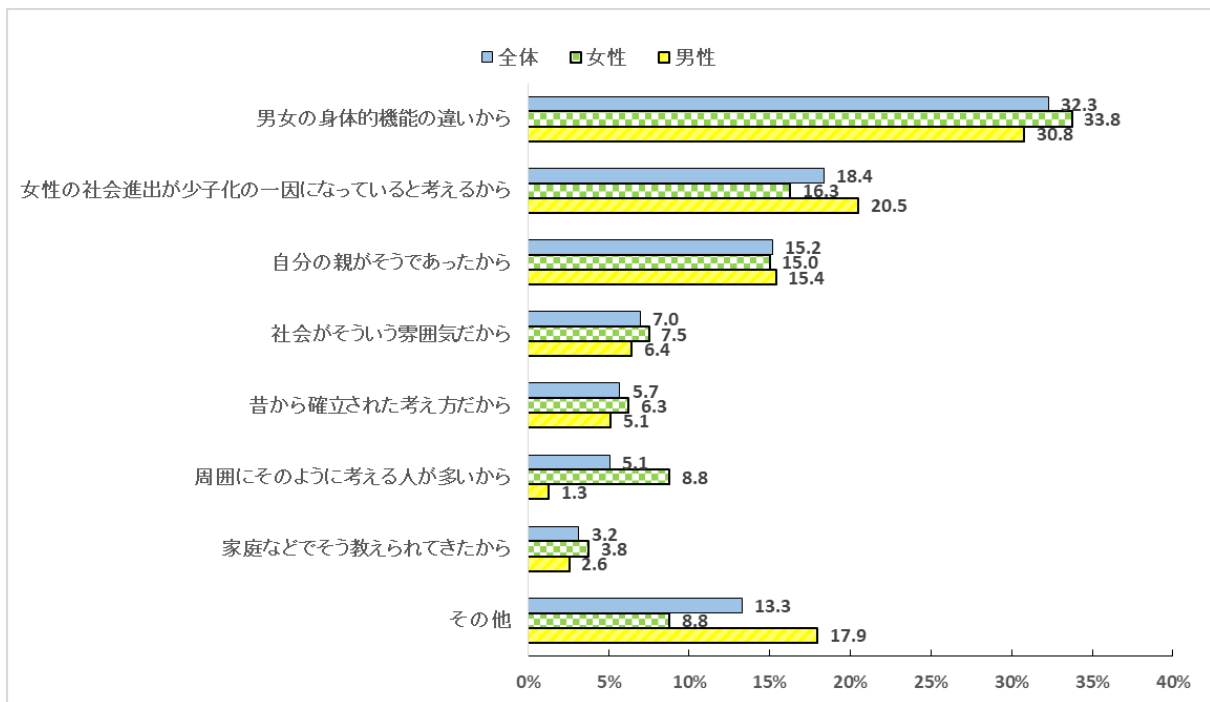


問1-2 (問1で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。)

あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

### 【回答】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(32.3%)の割合が最も多く、次いで、「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」(18.4%)、「自分の親がそうであったから」(15.2%)の順となっている。



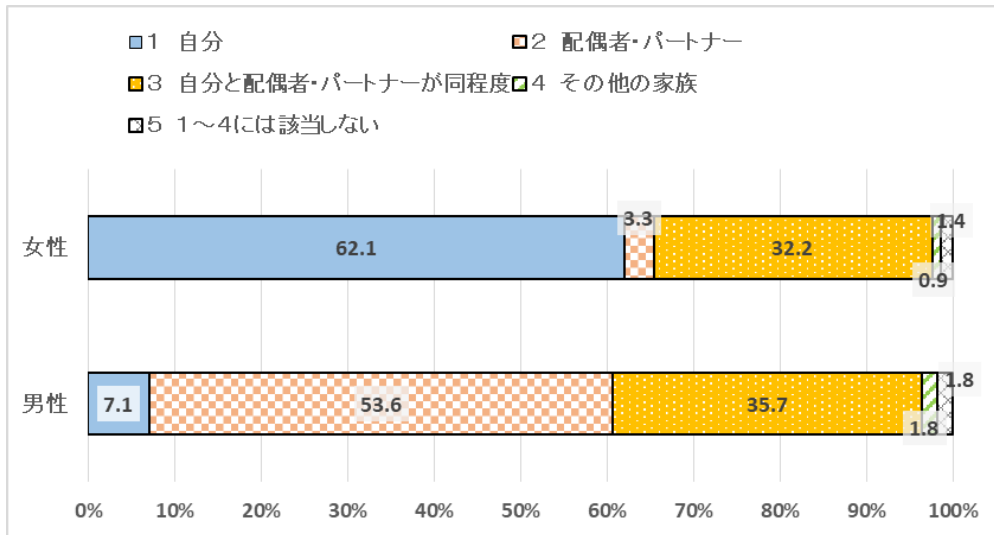
### (その他) 抜粋

- ・ 妊娠や出産の大変さを考えると、仕事よりも家庭の方が精神的・体力的に落ち着いた生活ができるから。
- ・ 父親よりも母親の方が子供に接した方が良いと感じることが多いから。その際、夫は妻のサポートをすることが必要と考えるから。
- ・ まだ男性が子供の学校行事や役員などで休むことが難しい場合が多いと感じるから。
- ・ 男女間に収入の格差があるから。

問2 あなたの家庭では、炊事・洗濯・掃除などの家事について、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

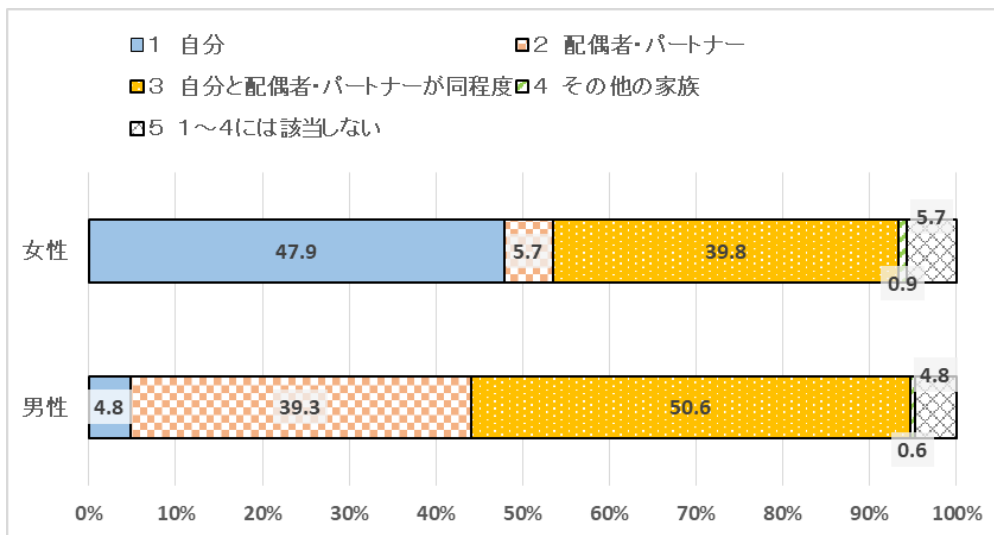
家事を行うのは、女性は「自分」（62.1%）が最も多く、次いで「自分と配偶者・パートナーが同程度」（32.2%）となっている。男性は「配偶者・パートナー」（53.6%）が最も多く、次いで「自分と配偶者・パートナーが同程度」（35.7%）となっている。



問3 あなたの家庭では、育児・子どものしつけについて、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーや子どもがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

育児を行うのは、女性は「自分」（47.9%）、男性は「自分と配偶者・パートナーが同程度」（50.6%）で最も多い。一方、女性における「自分と配偶者・パートナーが同程度」の回答は、39.8%と男性の方が10.8ポイント多く、男女の違いがみられる。



問4 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っていますか。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは  
配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

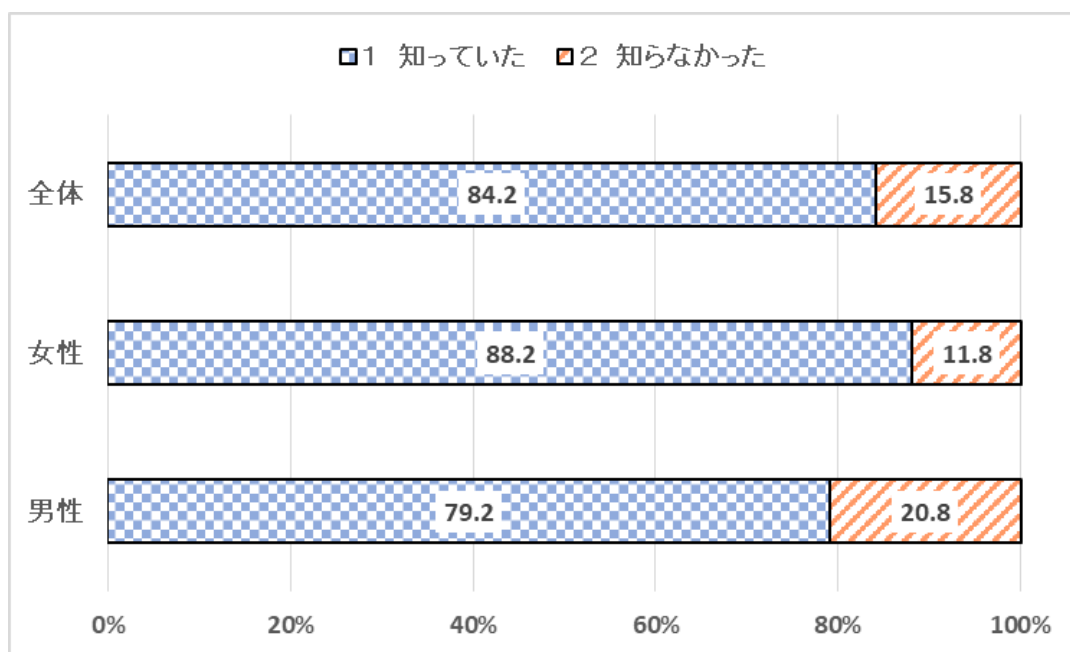
【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

※県内12ヶ所の配偶者暴力相談支援センターで相談を受け付けています。

【回答内容】

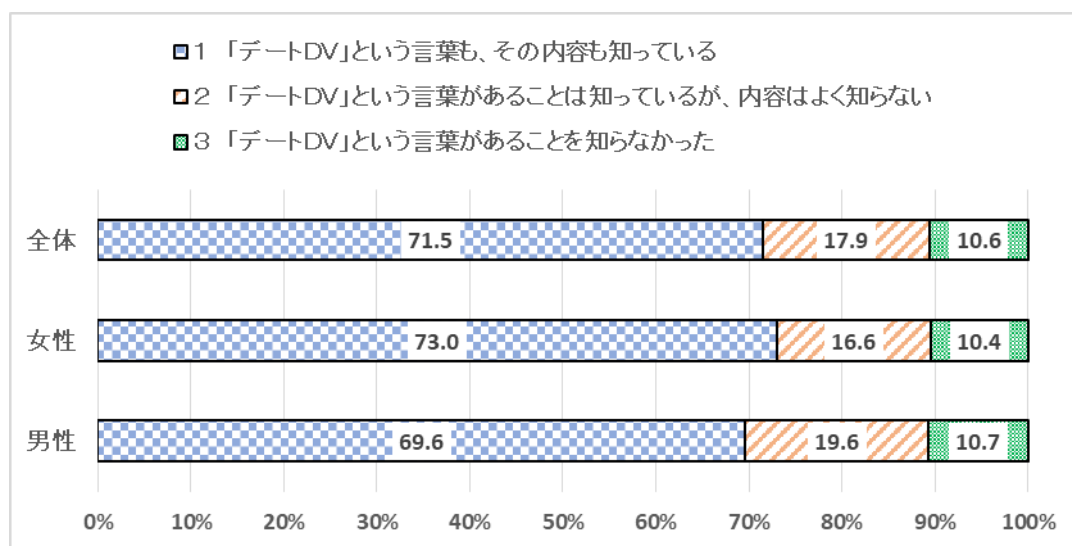
DVについて相談できる窓口があることを「知っていた」と回答した人は、女性は88.2%、男性は79.2%である。



問5 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。

【回答内容】

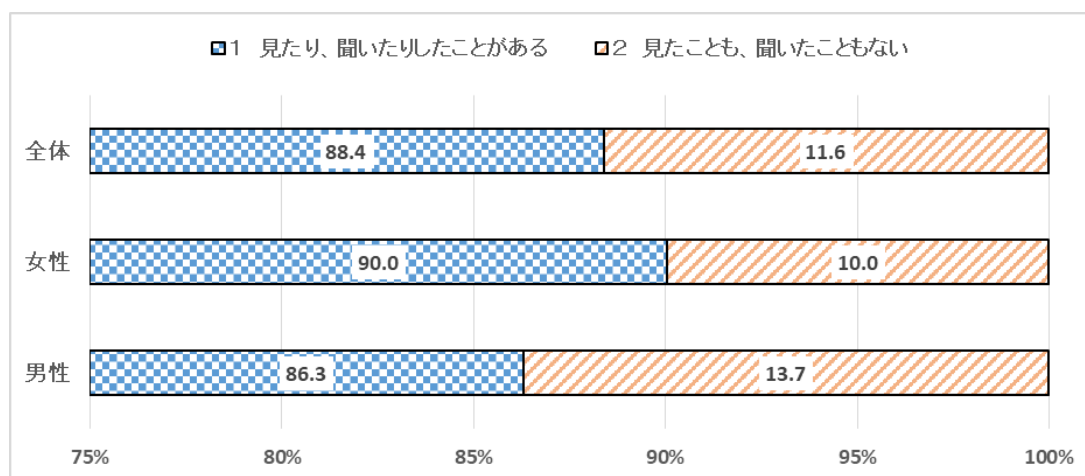
全体では、「言葉も、その内容も知っている」が71.5%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が17.9%、「言葉があることを知らなかった」が10.6%となっている。



問6 あなたは、DV防止に関する広報を見たり、聞いたりしたことがありますか。

【回答内容】

全体では、「見たり、聞いたりしたことがある」は88.4%、「見たことも聞いたこともない」が11.6%となっている。

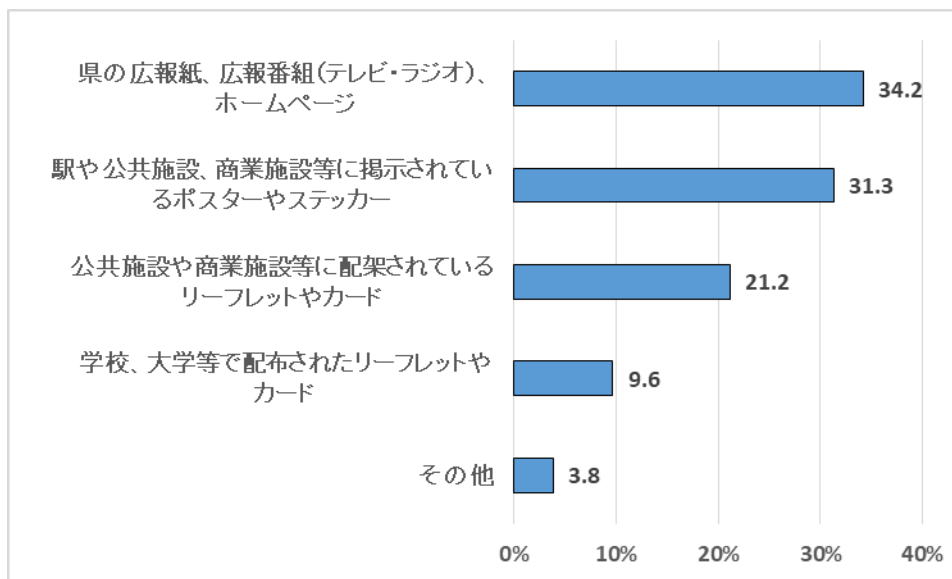


問6-2 (問6で「1」を選択された方にお尋ねします。)

あなたが見たり、聞いたりした広報の媒体はどのようなものでしたか。(〇は2つまで)

【回答内容】

「県の広報紙、広報番組(テレビ・ラジオ)、ホームページ」が最も多く(34.2%)、次いで、「駅や公共施設、商業施設等に掲示されているポスターやステッカー」(31.3%)、「公共施設や商業施設等に配架されているリーフレットやカード」(21.2%)の順になっている。



(その他) 抜粋

- ・市町村や市民団体の広報紙等
- ・社内研修や講演会
- ・駅や病院、女性トイレ
- ・新聞やテレビ、SNS(インターネット広告)等

問7 男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（意見抜粋）

- ・ 男女間の賃金格差・待遇差別や、雇用形態別の待遇差にも触れてほしい。
- ・ 企業が出産後の女性に対する職場復帰支援を推進していくよう、県が企業に指導や補助を行っていくべき。
- ・ 小学校のころから教育を行って、当たり前のことだと考えることができるようにすべき。また、子供でもわかるような研修を行う必要がある。
- ・ 学校における制服のジェンダーレス化を推進してほしい。
- ・ 性別役割分担意識は家庭だけでなく地域社会の中でも根強く見られます。学校や保護者会などあらゆる場面での働きかけが重要と考えます。
- ・ 役所や議員など公的なものから男女共同参画を進め、官庁の採用時や議員定数の男女人数枠の設定から始めるべきと考える。女性の社会進出が可能な環境を作る施策を自治体としてしっかり作り、男女問わず働きやすく住みやすい魅力ある自治体になればと思う。
- ・ 様々な分野においてクォータ制を積極的に導入するなど、制度を先行させ意識改革を進めた方が効果的だと考えます。
- ・ ネットなどでの広報をより充実させると取り組みが浸透するように思う。
- ・ こんなに世間でDVについて話題になっているのになかなか具体的解決方法がないのは非常に根深い問題なのだろうと感じています。
- ・ DV被害は女性だけでなく男性に対してもあります。
- ・ 自分が受けていること、自分の行為がDVだと認識できていない場合があるから、学校教育の場で早い段階から具体的に伝えていく必要がある。